

神田秘帖

「はじめに」

山崎親雄

神田の日本透析医会事務局には、設立当初よりの会議録や文書資料が残っています。このたび、事務局が手狭になったため、この資料を整理することになりました。しかし、当時を知る執行部の先輩方は鬼籍に入られた方もあって、自ら進んで、私がこの役を引き受けることにしました。段ボール7個分の資料ですから、設立当初からの文書資料とするには少なく、かなりの部分が、すでに整理され、廃棄されていたかもしれません。

一方、当時の専務理事であった太田裕祥先生（大学は名古屋でしたが、神田で生まれ育っており、先生の強い希望があって日本透析医会事務局が神田に置かれたと聞き及んでいます）や、鈴木満先生（伝通院の近くで生まれ、江戸時代からの言い伝え通り、箱根の向こうにはオバケが住んでいると信じていたチャキチャキの江戸っ子です）は、例えば厚生省との交渉事や暗黙の了解は、文書に残すべきではないという強い信念を持っていて、そのために残した文書が少なかったのかもしれませんが。鈴木先生には、常任理事会のあと、日本透析医会事務局近くの蕎麦屋（大晦日の年越しそばでNHKに紹介される）で飲んで日本透析医会の仕事に関する内容の話していると、「壁に耳あり……」と時代劇風な注意を何度も受けたのを思い出します。ほんのちょっと小耳にはさんだことでも、ずいぶん脚色して、燃え上がる飽屑のようにペラペラしゃべってしまう私とは、危機管理意識が大違いでした。

さて、資料の中身を読み始めてみますと、「聞いてはいたけれどもそんなこともあったんだ」とか、「真実はこれだったのか」という内容も沢山あります。そこで、こうした重要な文書はただ整理するだけでなく、会員にも知っておいていただくべきと判断し、日本透析医会雑誌を編集する広報委員会にお願いし、一話完結のシリーズで書かせていただくことにしました。

もっとも私は、平成6年の診療報酬改定準備のころ、唐突に常務理事に就任し、それまでは、災害対策委員会（土屋隆委員長（長野）：後に日本医師会常任理事に就任）や、廃棄物処理委員会（山川眞委員長（大阪）：ご子息が現山川智之常務理事）の委員として参加していただけですから、当時あるいはそれ以前の執行部でどのような話し合いが行われていたかは知る由もありません。そこでできる限り資料に基づいた事実をと思って書きますが、科学論文ではありませんので、先にも書いたようにスポークスマンとしての私は、「見てきたようななんとやら……」に近く、それなりに修飾されたノンフィクションのつもりでお読みください。ただ、あまりに事実と異なっては困りますので、私よりも少し先に常務理事となっていた吉田豊彦先生（千葉）に確認していただいたうえで、投稿させていただきます。

シリーズの名前は、おこがましくも吉川英治の「鳴門秘帖」をまねて、「神田秘帖」としました。もちろん秘帖とは、秘密の記録・手帳のことです。でも会議記録や診療報酬改定要望書などは秘密文書ではなく、当然公開してしかるべきものです。したがって鮑屑と自称する私でも、本当に不都合な部分は、腹にしまっておくこともあると理解しておいてください。

なお、当時の理事であった先生方の中には、異なった機会を通じて、私の書いた文章の内容が間違っていたり、まったく別な情報をお持ちの方もあろうかと考えております。その時には、個人的に、あるいは広報委員会あて、内容の追加や訂正をして下さい。

追伸：もう頼まれ原稿も、講演もお断りすると宣言して1年がたちます。ただ今回は、長く日本透析医会で仕事をしたものの義務として、書くことにしました。お許しを。

日本透析医会名誉会長/増子クリニック 昴